



N.S.ニュース速報A

NSDAP/AO : PO Box 6414

Lincoln NE 68506 USA

www.nsdapao.org

#1069

10.09.2023 (134)

国民共同体とエリート主義の間のリーダーシップ

From Michael Kühnen

タイムターナー

ヨーロッパの歴史には、多くの転覆、反乱、騒乱の歴史がある。その中には、「革命」という名を冠したものも少なくない。しかし、革命とは何なのだろうか。

旧体制のルールを破って誕生したすべての新政権が、革命の表現であるとは限らない。革命とはむしろ、精神的、精神的、倫理的、そしてもちろん政治的な基盤の完全な変化と刷新であり、すべての価値の再維持なのです。革命の後、以前と同じものは何もなく、社会生活の座標系全体が変化したのです。聖書の「見よ、わたしはすべてのものを新しくする」という言葉は、革命の主張と現実を象徴的に表しているのかもしれませんが。

先史時代には、

狩猟採集生活から農耕生活への移行という、特にこの種の革命があった。都市の出現や青銅器時代から鉄器時代への移行など、さらなる激変を、歴史的に重要な本物の革命とみなすか、あるいは、私が考えるように、この

最初の革命の論理的効果とみなすかは、未解決である。いずれにせよ、生活態度やあらゆる価値観を一変させたのは定住化であり、革命であることに疑いの余地はない。多くの人種や民族がこの革命を経験し、それが今日も私たちの生活を支配しているのである。

健全な文化には革命は必要ない。なぜなら、文化は、それを担う民族と国家の生物学的性質と自然の法則に則っているからである。通常「新石器時代」と呼ばれる定住化の革命は、文化の発展過程を開始するものであるため、肯定的に評価されるべきものである。この革命に参加しなかった民族は、「知恵遅れ」とみなされ、ますます生活に適さないことが証明されている。生物政治学的な観点から見ると、彼らは確かに自然環境によく適応し、自然や独自の国民性と調和して生きているが、文化を創造する能力と意志は、人間の生物学的素質でもあり、これらの民族は、自らの不利益のために完全に萎縮させることを許してしまった。「自然への回帰」を目指すのではなく、自然と種に応じた高度な文化の創造を目指す国家社会主義の観点からは、新石器時代の革命は、したがって必要かつ肯定的なものであった。

文化が退化しすぎた場合、つまり文化を持つ民族の生物学的特性や自然の法則に反して発展した場合にのみ、私たちの民族の生活は、大きな動揺や介入を必要とする自然な発展を遂げることができたのです。これは、アジアやアメリカのインディアン文明のような、文化を持つ他の民族がそうであったように思われる。そして、彼らを経験した転機は、革命による内部からのものではなく、アーリア人種の世界的な植民地主義による外部からのものであった。しかし、残念なことに、アーリア人種はさらなる革命を経験することになる。

かつて強大だったインド・ヨーロッパ系の古代高度文明は疲弊し、退化し、余程のことがない限り、種や自然に沿った生活に戻ることは不可能だったのです。

健康で活力に満ちたゲルマン民族は、ローマの遺産を引き継ぎ、その結果、はるか北からペルシャ国境、そしてその先に至るまで、共通のアーリア系高度文明を更新する運命にあった。地中海から北への重心の移動、ラ

テン人やヘレン人からゲルマン人への文化的リーダーシップの転換は、世界史に深い切り傷を与えただろうが、旧世界の生活態度を一変させて新しい時代を到来させるような革命ではなかっただろう。

しかし、そのような革命が起こったのです。古代世界の組織には、異質で不吉なものが根を下ろし、その退化から利益を得て、それを助長していた。それはキリスト教の革命であり、唯一絶対の神を新しい世界観の中心に据え、教会を神の意志の執行者と宣言したのである。ゲルマン民族の運命的な移行が、大王として歴史に名を残すフランク王国の支配者シャルルの戴冠式という形で表出するまでに、彼らはカエサル家のローマだけでなく、キリスト教会と宗教のローマも長い間受け継いでいた。しかし、それは自然や生物種と調和した高度な文明への転換をもたらすものではなく、むしろ独断的で不自然な遠視をもたらし、自然の基盤や生命の法則からますます疎外された。

ニーチェは、この発展をデカダンスという言葉で適切に表現している。デカダンスとは、まさにこの疎外と退化を意味する。しかし、文化は自然と調和してこそ長期的に存続できるものであり、健全な生命力は、新たな革命が起こるまで退化に反抗する。

聖なる異端審問が革命を防ぐための道具であったように、キリスト教中世の歴史はすべてこの永久反抗の観点から解釈することができる。

そして、ついに、再び、過度の激変を引き起こす革命的な共同体が見つかったのである。彼らの外見上の勝利は1789年のフランス革命であったが、それは真の革命であり、力関係だけでなく、生活の基盤すべてを変え、時代の新しい転換となった。キリスト教の神は地上の全能感から脱却し、自由な個人がすべての生活と感情の中心に躍り出た。このリベラリズムの革命は、その高貴さを意図したものであったが、人間の本性のために惨めに失敗し、真に安定した生活秩序を確立することはできず、キリスト教の強制の秩序に代わって、加速度的に退廃と溶解が進んだ。結局、この革命は生活のあらゆる基盤を変え、今日でも私たちに影響を与えている。その結果、工業化が起こり、資本主義が発展し、その最も極端な子孫としてマルクス主義が誕生した。

しかし、この間、あらゆる大陸に分派を生み、その生活態度や権力政治の面で世界を支配してきたヨーロッパ文化圏の基本的な問題、すなわち、文化や自然からの疎外、ますます加速する退化や退廃は、まだ解決されていなかったのです。

そして、ついに意識的に革命的な共同体が集まり、ヨーロッパ文化の2000年にわたる異常事態を根本的に止める革命を引き起こしたのです。

新石器革命によって、アーリア人は文化の創造を開始し、ヨーロッパのヘラとローマの古代ハイカルチャーに結実した（ペルシャとインドのアーリア人文化は別の道を歩んだが、それを追求するにはあまりにも時間がかかりすぎるだろう）。古代文化は、それを支えてきた民族（特にローマ人）の生命力の枯渇によって、やがて退化した。このため、ヨーロッパで最初の本格的な革命が起こり、文化が一新されるだけでなく、まったく新しい生活秩序が生まれたが、同時に、文化と自然がきっぱりと疎外される異常事態が引き起こされた。このキリスト教革命は、ゲルマン民族の健全な生命力を、印象的で独断的な厳格さで利用し、あらゆる反乱にもかかわらず、何世紀にもわたってこの方法でその秩序を維持することができたのである。

この革命は、正当な反抗から生まれたが、ヨーロッパ文化の基本的な問題を認識せず、さらに悪化させた。しかし、間違った道は、今や文化だけでなく、民族の死の道となりつつあることは、次第に明らかになってきているのだ。国家社会主義革命はこれに反対し、生物学的思考と人と民族の自然共同体をすべての思考と感情の中心に据え、時代の新しい転換を引き起こし、文化と自然が再び互いに和解し、退廃、退化、疎外が克服された高い文化を可能にするものである!これは、ヨーロッパ史における第3の転換点である。

この3つの革命のそれぞれによって、新しい時代が始まる。キリスト教は、その創始者の誕生によって新しい時代を発展させ、強制することによって、このことを明らかにした。この宗教の歴史形成力は、今日まで長続きしている。

メーソン＝リベラル革命は、フランス共和国の宣言によって新しい時代の元年を始めようとしたとき、これに匹敵する主張をした。彼らが永続的な支配秩序を確立できなかったことは、ナポレオンがわずか数年でこの暦を暗黙のうちに廃止したことでわかる。

国家社会主義は、当初、第一次世界大戦の敗北とヴェルサイユ独裁の屈辱から生まれた、純粋なドイツの自由運動であると考えた。しかし、時間が経つにつれて、その本質が、世界的な気概を持った人種革命であることを理解するようになったのである。

第二次世界大戦は、国家社会主義革命の超国家的課題を実現するきっかけとなった。しかし、国家社会主義がドイツ軍の権力的・政治的支持を失って初めて、白色人種の生息地のあらゆる場所で、国家社会主義者が自分たちを世界的な革命運動と見なすようになったのである。したがって、最後の真の革命を通じて、わが民族の生存を確保し、それを新たな開花へと導く道は明らかである!すべての条件は整っている。そして、国家社会主義者たちとともに、長い間始まっていたこの革命を完成させる世界的な、統一された、革命的な共同体が存在するのである。

新しい時代が始まったこと、すべての価値観が変わりつつあること、健全な人種と民族に基づく世界秩序のための新しい基盤が築かれたことを、これ以上うまく説明できるものがあるだろうか。しかし、この時代の転換点の1年目、この革命はいつ始まったのだろうか。

私たちの革命の始まりは、判断するのが難しい。

ロマン主義とニーチェは、国家社会主義党の設立や政権奪取が歴史的な日付であるのと同じように、その一部です。しかし、このことについて、これまでまともな議論がなされたことはない。第二次世界大戦後の国家社会主義者の心情が、唯一正しい判断を下し、決断を下したのです。どんなロマン派も、ニーチェも、どんな党も、どんなプログラムも、2000年にわたる誤りを正す革命を起こすことはできなかった。新石器革命以来、最大かつ最も重要な時代の変化には、あらゆる基準を破り、その姿によって世界

を真に変えることができるタイムターナーが必要だった。ドイツ国民がこのタイムターナーを与えられたのは運命の恵みであり、ドイツ国民が最終的に彼をそのように理解し、リーダーとして選び、あらゆる浮き沈みの中で彼に従ったことは、ドイツ史の永遠の栄光となるであろう。アドルフ・ヒトラーがいなければ、我々の文化は、そしてそれとともにおそらく我々の白色人種は、再生の機会を得ることなく死んでいただろう。このような救済と救いの革命が本当に可能であることを証明したのも彼であり、彼の力はその歴史的必要性と結びついて世界を変えたのである。

総統はもはや肉体的には我々と共にありませんが、その精神は我々と共にあり、革命を完成させる力を与えてくれます。我々は新しい時代に生きていることを理解しています。この時代はキリスト教暦の1889年4月20日にアドルフ・ヒトラー総統が誕生して始まり、その最初の世紀がまもなく終わろうとしています。戦争が終わってから、私たちは総統の年（JdF）を数え、時間の転換点であるアーリア人種の救世主、私たちの総統アドルフ・ヒトラーを称えることにしています

ザ・ヴィジョナリー

国家社会主義革命は「救済の革命」、アドルフ・ヒトラーは「アーリア民族の救済の姿」という言葉は、部外者にとってはあまりにも高尚なものに見えるかもしれない。それを理解するためには、「救済」の意味を正確に理解する必要がある。

救いとは、倫理的に質の高い理念のために、知識、意志、行為の統一が達成されることを意味します。この救済は、個人によって達成され、また、すべての自然のおよび文化的共同体によって達成される。国家社会主義は、すべての民族的、人種的同志のために、また、わが民族のすべての人民、その国家および国家、来るべき帝国および全世界における悲願の新秩序のために、

救いの状態を目指す!この点で、我々の考えは、ヨーロッパの理想主義の伝統に則ったものである。救いは、思想と価値の奉仕に人生の意味を見出

すことであり、物質的な幸福に主眼を置くことではない。

国家社会主義はエゴイズムと戦い、共同体の優位性を公言する!

倫理的に価値のあるアイデアと言う場合、どのような倫理を意味し、何から派生したものなのかを明確にしなければなりません。

すべての革命は、古い価値観の再評価をもたらし、新しい価値観と新しい倫理を持つ新しい天幕を確立させる。国家社会主義倫理は、キリスト教倫理のように、神の戒めや、メーソン倫理のように、個人の幸福追求に由来するものではなく、生物学的に理解される共同体の考え方から、その強制力と有効性を主張するものである。このように、価値観の階層があり、その頂点にあるのは、種と自然に従って人々と種族の生存と発展である。この価値観の階層と、私たちが目指す救いは、不可分に結びついているのです。つまり、人類と民族の同志として自然と調和し、素晴らしい生命の多様性の保全、保護、発展に努め、それに従って生きる人間である。

もし人間が、たとえ民族全体、国家全体、人種全体であっても、救済から外れ、退化し、自然や同族から疎外されるなら、長い目で見れば、種としての死と、個人の生活における価値と意味の完全な空白に脅かされる。私たちの民族は全体としてこのような災難の中にあるが、とりわけ私たちのドイツ民族は、そのため生命力が枯渇しているように見え、その人々はもはやいかなる意味も価値も認識することができないのである。

私たちの種の人々をこのマイナス世界から導き出し、死の道から離れ、新たに生まれ変わった美と尊厳と多様性に満ちた生命への道を切り開く革命は、救いの革命であると言っても過言ではないでしょう

この革命を可能にした

エネルギー、天才、意志の強さ、偉大さを

持つ例外的な人物、我々の指導者アドルフ・ヒトラーを、アーリア人種の救世主として祝う

ことは間違っているのだろうか?もちろん、そんなことはありません。

私たちが挨拶とともに願う救いの勝利は、2つのステージで行われます。

第一段階では、国家社会党が、民族の前衛として、具体的な時間的プログラムに基づいて、政権を獲得し、念願の新秩序の基礎を築きます。そして、党は解散し、第二段階では、わが民族、その民族および同類の人々が、あらゆる能力を完全かつ自由に開発できるような高度の文化が発展し、その結果、未曾有の黄金時代を体験する。

この新しい時代がどのようなものであるか、私たちはまだ予測することができない。私たちの種族の過去の高度な文明の全盛期を思い浮かべ、現在と未来の科学技術の知識によって、その高さがどれほど促進されたかを想像してみると、そのことが少しわかるかもしれません。

私たちの子孫だけが住むことができるにもかかわらず、私たちが憧れ、戦っているこの新秩序について考えるとき、私たちは、その芸術的性質がそれを予見し、権力の絶頂にあったときの発言がそれを示唆する総統のことを、順に考えていきます。これらの発言は、総統府での独白に見られるもので、先見の明のあるアドルフ・ヒトラーの思考と感情の中に、自由、偉大さ、美への深い憧れがあったことを物語っている。彼は、美的感覚を持った芸術的な人々を新帝国の指導者にしたいと考え、人種と人格の最高の価値を体現する人々を訓練したいと考えたのだ!

そして、この天才的な意志の持ち主、新しい世界のビジョナリーは、人間の意志は何でも達成できること、新しい時代の夢はむなしい愚行ではなく、実現できることをその生涯の仕事によって証明したのだ!この先見の明と夢想家は、若いころはしばしば嘲笑されていたが、一体どれほどのことを成し遂げたのだろうか。

そして、最後の暗い時間でさえも、彼の意志が揺らぐことはなかった。彼の政治的な遺言の中にも、彼の信仰や希望ではなく、彼の犠牲となった死から、彼の仕事を完成させる力が生まれるという確信が見て取れるのです。私たちはこの遺志を継ぐのです



NS KAMPFRUF
KAMPFSPRÜFUNG DER NATIONALSOZIALISTISCHEN DEUTSCHEN ARBEITERPARTEI AUSLANDS- UND AUFFBAUORGANISATION

September 1934 Ausgabe 1273 28. April 2017 02.06

Der Kampf geht weiter !

Beide Jahre nach der Kapitulation der Wehrmacht am 8. Mai 1945 ist die nationalsozialistische Bewegung stärker als je zuvor in der Vorkriegszeit. Und zwar nicht nur in Deutschland, sondern auf globaler Ebene!

Mitglieder von Massenmord, Verbrechen, Verfolgung und Verdrängung haben nicht angehalten, das Kreuz des goldenen Hakenkreuzes hoch gehenden Führer Adolf Hitler zu entdecken.

Alle Nationalsozialisten sind weniger gefährliche Täter- und Kampfgemeinschaften Schicksal als Schicksal im Kampf um die Erlösung unserer weißen Völker. Die Bewegung ist zwar stärker geworden, aber die Gefahr des biologischen Völkermord ist keine noch viel größer als in der Vergangenheit.

Die vornehmliche Aufgabe ist es, den Völkern - gegen alle weißen Völker (V) - zu zeigen, dass Mittel und Eisenbahnen, Überflutung und Kampfgemeinschaft.

Ob "legal" oder "illegal", ob im Wahlkampf oder im Massenmord, ob im Propagandakrieg bzw. auf einem Schlachtfeld anderer Art. Jeder Nationalsozialist hat seine Pflicht!

Hail Hitler!
Gerdhard Lauth



TROTZ VERBOT NICHT TOT!



N.S.ニュース速報A
www.nsdapao.org
#1005 19.06.2022 (133)

NSDAP/AO: PO Box 6414 - Lincoln NE 68506 - USA

フロントレポート
モリーへのインタビュー
第3部

NSK: 現在のプロジェクトは、明らかに哲学的で、アートに関連したものです。

このような活動が政治に与える影響について、あなたの考えをお聞かせください。

モリーです。フォトギャラリーの更新は続けていますが、主に Adolf Hitler and the Army of Mankind (www.movingtheancient.com/truth.htm)に集中して取り組んでいます。現在2ページですが、まだまだやるべきことがたくさんあります。第二次世界大戦の戦後は、まさに情報の増量期です。1つのことについて情報を探しても、さらに2つほど調べたいことが出てくる。まるで、埋も




the NEW ORDER
Number 176 (132) Founded 1978 April 26, 2021 (132)

The Fight Goes On !

Seventy years after the capitulation of the Wehrmacht on May 8, 1945, the postwar National Socialist movement is stronger than ever not only in Germany, but throughout Europe.

Decades of mass murder, expulsion, persecution, and defacement have not sufficed to destroy the seed of the brilliant idea of our much-loved Führer Adolf Hitler.

All National Socialists and other racially-aware conservatives and racial thinkers fight side by side for the preservation of our White folk.

The movement has indeed become stronger, but the danger of biological folk death is also much greater today than in the past.

The desperate enemy is in the process of committing genocide against all White folk. His means are non-White immigration, culture denigration, and race-mixing.

Whether "legal" or "illegal", whether in election halls or street battles, whether armed with propaganda material or on a battlefield of a different kind, every National Socialist must do his duty!

Hail Hitler!
Gerdhard Lauth



TROTZ VERBOT NICHT TOT!

NSDAP/AOは世界最大です 国家社会主義プロパガンダサプライヤー！

多くの言語での印刷物およびオンライン定期刊行物
多くの言語の何百冊もの本
多くの言語の何百ものウェブサイト



BOOKS - Translated from the Third Reich Originals!
www.third-reich-books.com

- SS Defender against Bolshevism by Reichsführer SS Heinrich Himmler
- The Poisonous Mushroom by Julius Streicher, Der Giftpilz
- Hitler in Italy by Heinrich Hoffmann, Hitler in Italien
- SS Viewpoint - Vol. 9 Wife and Family
- The Sins of High Finance by Theodor Fritsch
- Luftwaffe War Art Die Luftwaffe im BOD



NSDAP/AO
Fight Back!



nsdapao.org
Contact us to find out how YOU can help!